

新幹線プレス

2019年6月24日 No.426

発行者 杉澤秀則

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

第26回地本大会成功裏に終了!!

更なる組織拡大に向けて 組織一丸となって奮闘しよう!!

新幹線地本第26回定期大会は6月23日大崎第一区民集会所において開催され、14人の代表委員の積極的発言によって成功裏に終了しました。

【杉澤委員長発言要旨】

今日は、沖縄戦から74年。沖縄慰霊の日。今も沖縄は捨て石。沖縄の県民・労働者と連帯しよう。

安倍首相は、2020年を改憲の年としている。安倍の暴走を止めなければ改憲発議・国民投票となる。

JR東海労の最大の課題である組織拡大が実現した。加入した3名の仲間は、この間の会社による労働強化と社員管理に怒りを募らせ、JR東海労がこの間闘ってきた年休要請失効による年休裁判、一方的な休日出勤反対や新幹線車内業務見直し反対の闘い、不当な社員管理に対する闘いなど職場からの闘いについて大きな共感を寄せての加入だ。

一方的な休日出勤反対の闘いは、昨年9月の「お知らせ」に対する組合員の怒りが闘いのスタート。

会社は、休日出勤指定に対しての年休申請で休日指定解除をしている。予備月勤務の行路発表など多くの成果も。

人事賃金制度は、一部の努力した人だけが報われる制度。競争が余儀なくされる。ユニオンは追加提案が成果としているが果たしてそうか。検証が必要。

JR東海労の5年後10年後をどういう組織にするのか。議論を要請する。



【主な発言】

- ・将来、組合員と専任組合員が逆転する。組織の在り方についての議論が必要。
- ・昨今、60の定年で退職する人、58、59で退職の人もある。二人乗務なんてとんでもない「定年までやってられない」ということだ。
- ・S巡回行路では歩行数が20000歩に及ぶ。

- ・年金事務所で60歳を超えても同じ勤務だと言ったら驚いていた。高齢者用の勤務を。
- ・川本裁判証人調べで管理者から矛盾する証言を引き出した。川本さんも頑張った。
- ・安倍一強は、法治国家の完全崩壊だ。これを支えているのが我々だ。絶対権力は必ず腐敗する。
- ・今年4月から導入されたタブレットは、故障や認識ミスが多くある。タブレットに気を取られながら作業している。
- ・SMTでは、出向社員と所長の「俺はお前が嫌いだ」「俺もお前が嫌いだ」の口論が“暴言”となって。「嚴重注意」処分に。
- ・SMTの社員が目にワックスの剥離剤が入り労災になる。当該社員は、退職してしまった。
- ・年休裁判で会社が何にも努力していないことが明らかに、会社の認識が問われる。
- ・交検周期延伸で1日三本体制になり時間がない。さらにタブレットの導入でますます大変になった。
- ・厚労省交渉で、国会議員から厚労省に対して「JR東海の乗務員にだけこんなことが起こっているのか調査し指導するべき」との指摘があった。



【伊藤書記長総括答弁】

一方的休日出勤は、今現在指定されていない。これは、私たちの闘いがあったからあるのだ。しかし、会社は、いずれやってくる。さらに有効的な闘いを展開するための議論が必要。

新人事賃金制度に対する要求を作成した。退職年齢引き上げなどは、国鉄時代の採用者への適用とはなっていないが、問題の山積する制度を改善させるために、他労組への訴えかけも含めて今闘うべき。

各裁判闘争は、我々の主張の正当性がより明確になっている。最後の踏ん張りで勝利に向かう。

出向先の労働条件や労務管理は、最近相当ひどくなっている。これを糾すための闘いが必要。バス停でビラ配布も含めて闘いを強化する。

5年10年の組織展望の為に、いま議論を深めよう。

【退任された役員】

地本教宣部長として活躍されてきた庭山義輝さんは、東京地区分会で新たな任務に就くために退任されました。長い間お疲れさまでした。

来賓の皆様

- ・JR総連 淵上法対調査部長
- ・中央本部 木下執行委員長
加藤執行副委員長
- ・名古屋地方本部 荻野執行委員長
- ・新幹線関西地本 畑野執行委員長
浦谷書記長
- ・OB会 尾崎会長
- ・参議院議員 藤田幸久議員
- ・鉄道ファミリー 加藤誠二様
- ・やじんき法律事務所 渡辺弁護士
仲田弁護士
渡辺事務長